



	3月				4月中旬			
	最高気温	最低気温	平均気温	雨量(mm)	最高気温	最低気温	平均気温	雨量(mm)
本年	21.7	15.1	18.4	49.0	23.5	16.1	19.8	107.0
平年	20.6	14.2	17.3	122.6	22.9	16.8	19.8	139.2
平年との差	+1.1	+0.9	+1.1	-73.6	+0.6	-0.7	+0.0	-32.2

製糖終了の御挨拶

生和糖業株式会社
取締役工場長 菅 靖 治

皆さま、こんにちは。

昨年12月15日から始まった今製糖期は、4月5日に無事操業終了いたしました。

8万トンに僅かに届きませんでしたでしたが、昨年にくらばらずの豊作となり、搬入日数99日間で 79,837トンのさとうきびを工場に運んでいただきました。

残念ながら記録的低糖度での製糖開始となり、8月・9月の大豪雨では、がけ崩れなど島内道路で被害があり、交通インフラ面で大被害を受け、さとうきびはそれでも堅調に生育を続けていましたが、台風22号の暴風による全葉裂傷・折損・塩害を受けて成長が鈍化し、品質面では製糖の終盤3月に入ってやっと12度台の糖度平均となり、昨年より糖度が2度以上低いという大変厳しい製糖となりました。

5年前の5～6万トン台の苦しい低迷期が終わり、2年前の73,800トンそして昨年の95,833トンと好調でしたが、秋台風直撃の影響は大きいものでした。

天候面ではやや不運でしたが、何よりも皆さまが丹精込めてキビ作りに励んで頂いたことが今期のさとうきび量につながっていると思います。

キビ植付・肥培管理・害虫防除など皆さまの1年間のご苦勞が今期の豊作につながったものと感謝いたしております。

大変お疲れ様でした。

工場も、これから十分な整備を実施して、今後も安定操業が出来るよう頑張っていく所存です。来期はさらに、さとうきびが元気に育ち、その恵が島全体にいきわたるよう皆さまと協力して製糖に取り組んで参りますので、さらなる増産に向けて頑張ってください。よろしくお願いします。

そして喜界島の皆さまがいつまでも元気で豊かに暮らしていけるよう当社も頑張って参ります。来期も引き続き、健康に留意され、増産にご協力頂きます様、よろしくお願い申し上げます。



◆◆ 収穫面積・生産量の推移 ◆◆

各年	夏植			秋植			春植			株出			合計		
	面積	単収	生産量	面積	単収	生産量									
	(a)	(kg/10a)	t	(a)	(kg/10a)	t									
今期(H29/30)	19,535	7,616	14,879	8,392	6,390	5,362	14,157	4,944	6,999	99,860	5,267	52,597	141,944	5,625	79,837
H28/29	26,633	8,796	23,428	11,124	7,491	8,333	14,682	6,325	9,287	89,467	6,124	54,787	141,906	6,753	95,834
前期との差	-7,098	-1,180	-8,549	-2,732	-1,101	-2,971	-525	-1,381	-2,288	10,393	-857	-2,190	38	-1,128	-15,997
H27/28	21,226	6,735	14,295	10,312	6,356	6,554	16,258	5,467	8,889	83,702	5,267	44,084	131,498	5,614	73,822

◆◆ さとうきびの買入糖度・買入価格・トラッシュ率・歩留の推移 ◆◆

各年	買入糖度 (%)	糖度帯 (%)			平均買入価格 (交付金込)	対前年比 (%)	トラッシュ率 (%)	工場歩留 (%)
		基準以下	基準内	基準以上				
今期(H29/30)	12.19	77.8	18.0	4.2	20,126	88.2	7.11	10.27
H28/29	14.29	12.3	39.0	48.7	22,825	103.3	9.36	12.19
H27/28	14.10	12.3	48.1	39.6	22,104	102.8	10.42	12.18

9月～10月上旬にかけての生育は概ね良好で、平年を上回る勢いを見せていた。しかし10月中旬、下旬と相次ぐ台風接近や通過に伴いキビは乱倒伏、折損、塩害等により生葉数は3枚程度に減少した。加えて11月～12月の平均気温が平年より約1度低く、日照不足も重なり塩害からの回復は遅れ、11月下旬の圃場Bx. は14度台と前期を3度、平年を4度近く下回った。

生産量については前年比85%の81,600トンを見込み12月15日から操業を開始したが、低温、日照不足の気象要因により12月～1月の甘蔗糖度11度台と低迷した。2月中旬～天候の回復に伴い日計平均で12度台まで上昇した。3月中旬については日計で13度台まで上昇し、更に4月は14度台まで上昇したものの製糖期全般を通して低温、日照不足等により累計糖度は12.19度と、平成16/17年期の12.10度に相次ぐ低い成績で終了した。

生産量については、当初見込量の98% 79,837トンと概ね平年作(80,000トン)に近い生産量を確保した。

来期に向けて、
管理作業を実施
しましょう！

さとうきび作り栽培管理ごよみ



春植・株出	3月	4月	5月	6月	7月	8月
夏植	8月	9月	10月	11月	12月	1月

植付適期 中耕・培土(追肥)

病害虫防除

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
カンシャコバネナガ カメムシ(チンチバク)	3月下旬から産卵、同時にふ化 4月中旬頃から幼虫が出現する。			薬剤散布(2~3歳期)		6月 第1回成虫発生	8~9月 第2回成虫発生時！		10~11月 第3回成虫発生時！ 成虫、及び卵態で越冬			
メイチュウ類	薬剤散布(春植・株出のお枯防止)					成虫は4~10月、幼虫は5~6月・9~11月に多く発生！ 年4~5回発生！年間を通じて出現、幼虫も摂食を続け						
ハリガネムシ類	植付時薬剤処理(春植の不発芽防止)		雄成虫大量誘殺(フェロモントラップ) 幼虫は地中で2~3年経過、苗の芽子・根帯を食害！ 発芽、発根を不揃いにし、圃場を発芽不能にすることも多い。			植付時薬剤処理(夏植の不発芽防止)		有機質の少ない乾燥地帯での被害が多い！ 乾燥が過ぎた場合水分を求めて蔗苗に食い込むことも多くなる。				
ワタアブラムシ	4月~11月頃までの間に発生が多い！ キビは衰弱、糖度は低下し、ひどくなると黄変し枯死する。					葉裏への薬剤散布		発生は乾燥期に多く、降雨が続くと減少する。				
葉焼病	被害葉、発病蔗茎の抜取、畑外へ搬出・すき込						被害葉、発病蔗茎の抜取、畑外へ搬出・すき込み					

代表的な雑草名

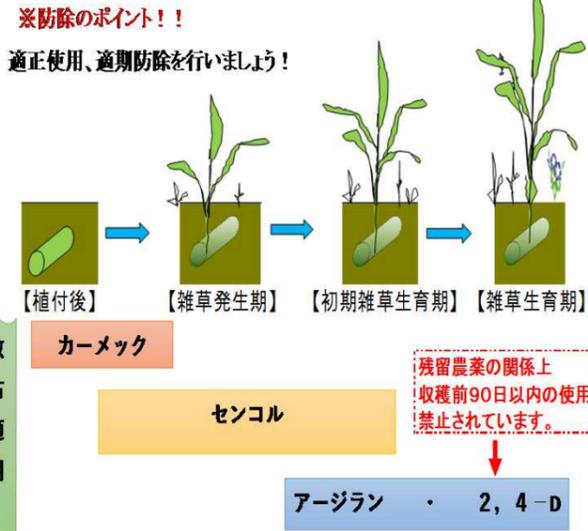
~きび畑でみつけたら雑草が小さいうちに防除しましょう
~()は島での呼び名



雑草防除

◎除草剤を効率的に使用して管理作業も余裕をもって！

さとうきび除草剤の使い方



植付後10日以内に
全面散布すること
(土壌処理)

雑草が小さいうちにかけると
効果が大きい(茎葉処理)

除草剤散布
(土壌処理)
カーメックス
センコル

効果は
1~2ヶ月

除草剤散布
(茎葉処理)
アージラン液剤
センコル



主な薬剤名	種類(10a当り)	効果のある主な雑草	備考
センコル水和剤	土壌茎葉処理剤 200g ~ 300g / 100	④ツユクサ ⑩センダングサ	注意
アージラン液剤	茎葉処理剤 1,000ml / 150~200%	①ギシギシ ③タチスズメノヒエ ⑥ススキ ⑦メヒシバ ⑩センダングサ	左記のセンコル及びカーメックスの量は全面散布ですので植溝散布薬剤は2/3~1/2の量程度、又カーメックスについては、農林8号に薬害が出やすいので散布量、散布方法、薬剤濃度には注意して下さい。
カーメックス顆粒 (茎葉処理ではサーファクタント(展着剤)を入れる)	土壌兼茎葉処理剤 100g ~ 150g / 100%	②イヌホウズキ ④ツユクサ ⑩センダングサ	
2,4-Dアミン塩	茎葉処理剤 300g ~ 500g / 100~150%	④ツユクサ ⑨ホシアサガオ ⑩センダングサ	

- ① マスク、手袋、保護メガネ、保護服を必ず着用しましょう！
- ② 薬剤は、取扱に十分注意保管に配慮しましょう！

編集後記

昨年は、異常気象で9月の豪雨及び10月に二度の台風接近、通過で、さとうきびは乱倒伏、折損、塩害の被害に見舞われた。青葉数の減少や低温、日照不足の影響を受け糖度はワースト2位と低迷し、特に種子島、喜界島、徳之島の三島は低糖度の被害を受け、これに伴い補正予算や増産基金が発令された。さとうきびは、品種特性を把握し慎重に選定する必要がある。ここ数年、23号の栽培が増加し、収穫面積の約30%を占めているが、特性として干ばつには強いが風に弱いという欠点もあります。近年、地球温暖化に伴い秋台風が発生する傾向にあるが、干ばつ、台風等の自然災害を考慮し、品種の分散化も重要である。また、農業共済への加入も忘れてはならない。